

令和元年5月25日現在

機関番号：13301

研究種目：基盤研究(B) (一般)

研究期間：2014～2018

課題番号：26284107

研究課題名(和文) 青島 旧蔵書籍書誌情報の緊急採録と国内学術機関宛寄贈書籍書誌情報原稿の完成

研究課題名(英文) Books from German Tsing-tao: Assets of the Great War in Japan

研究代表者

持井 康孝 (Mochii, Yasutaka)

金沢大学・その他部局等・名誉教授

研究者番号：40107496

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 7,400,000円

研究成果の概要(和文)：当該書籍の都合約2/3に就き、精査を完了。今次事業に於る精査済み受贈機関は第2、第3高校、新潟高校の3機関のみだが、東北帝大は雑誌5、6冊を遺すのみで、山形高校は9割方を了え、東京帝大も8割方、松本高校も5割方を了え、京都帝大は、雑誌は2割程だが、単行本は完了。
公表論文2篇(A、B)のうち、Aでは膠州図書館宛書籍寄贈者H. グラウエ、及びヴ、コーン叢書の寄贈者W. コーンに就ての新知見を記しつつ、膠州図書館所用受入蔵書印中の長方形印の使用時期を特定し、Bでは新潟高校受贈書籍に就て略報すると共に、膠州図書館蔵書票の印刷用組版の来華時期、及び当該図書館創設時の勅許状と財団証書の全文を付記。

研究成果の学術的意義や社会的意義

国立大学図書館にて現在進行中の当該書籍の劣化、廃棄という坐視し得ぬ状況下に於て、特に伝世、管理、利用に関する書誌情報の緊急採録を行なうことは、歴史研究者として喫緊の使命と心得る。又、斯る歴史遺産の具体的精査及び関連資料との対比、分析を通じて、ドイツの東亜に於る租借地経営(特にその文化、教育面)及び日本の青島守備軍による占領地統治の実態の一端を具体的に解明せんとの試みに就ては、他に有ることを寡聞にして知らぬ。

研究成果の概要(英文)： Books from Germann Tsingtau presented to Universities and Highschools in Japan contain various types of bibliogr. data and imprints, for instance seals of traders, ex-libris, ownership stamps, bookmarks, etc. These data and imprints show us the history of the books. We totally investigated 2/3 of the books.

We published two reports. The first dealt with Heinrich Glaue, Wilhelm Cohn, and the rectangle type of ownership stamps of Kiautschou-Bibliothek. On H. Glaue, we traced his brief life and presumed an special ex-libris belongs to him. On W. Cohn, we cleared his dwelling place in Berlin based on his postcard and Berliner Addressbook. And on the rectangle type of K.-B. ownership stamps, we pointed out the year which it was used. The second dealt with the Books from Tsingtau received by Niigata Highschool. While we found a full text of the kaiserl. Kabinettsordre and Stiftungsurkunde of K.-B., we retyped them as a post script.

研究分野：歴史学

キーワード：青島

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19、CK - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

まず独逸租借期青島旧蔵書籍及びその現蔵状況に就き簡介する。当該書籍群は、1898年-1914年にドイツの青島在設諸機関に於て収集、所蔵、活用され、第一次世界大戦に於る青島開城後に日本の青島守備軍により接收され(約27,000冊)、全大戦の最末期に日本側の官庁、学術機関、軍関係諸部局など宛に寄贈されたもので、その後の日本国内に於る戦災、組織解体、移管などを経て、今日その後継諸機関を中心に当初の約1/3(約9,000冊)の現蔵が確認されている。その最多現蔵機関は京都大学(約2,500冊)で、京大では附属図書館と総、人図書館の地下書庫内に各々<青島書籍>として一括配架されているが、例えば東大、東北大(帝大分)、北大などに於ては他の蔵書と混在した状態で配架されるなど、その所蔵形態は異なる。

青島守備軍は、当該書籍群を膠州図書館蔵書籍、徳華高等学堂蔵書籍、及びその他の官有書籍(ヴィルヘルムコーン叢書を含む)の3書籍群に大別したが、ドイツ側所製欧文蔵書目録(1911年)所載の膠州図書館蔵書籍を除くと、他の書籍群に就ては、青島守備軍所製日語訳書目(不鮮箇処の多い油印本)に拠ってその一端を推測するのみであった。

箇々の書冊上には、その青島到来前のものは素り、青島に於るドイツ側司書及び利用者、日本側青島守備軍、及びその寄贈を受けた日本側国内諸機関、現蔵機関の手を経ている間に貼付、押印、筆記、挿挟された納本、製本業者の商票、蔵書票(印)、整理票(印、録)、署名、献辞、或は閲覧時の筆録や戯画、及び栞替りの名刺、端書など、その伝世の次第を具体的に辿るうえでの貴重な<書誌情報>が数多く遺されており、これ自体が歴史遺産となっている。

特に、青島に於て貼付されたドイツ側所蔵機関及び日本側青島守備軍による書籍整理票は、当該書籍が何処の所蔵機関に、如何なる状態で所蔵、利用され、或は如何に接收、整理されたのかということ具体的に辿るうえで必要不可欠な資料であるにも関わらず、背表紙上への貼付ゆえに、経年に因る劣化、破損、剥離の他、日本国内に於る所蔵機関での剥取、新票上貼、或は表紙改装などにより、一部は既に失われ、特に独法化以降の国立大学に於ては、電子登録に際して新票を旧票(印)上に不用意に重貼したり、甚しくは重複本を理由に廃棄するなど、憂慮す可き事態が急速に進行している。

斯る独逸租借期青島旧蔵書籍が日本、ドイツ、中国を含む世界の歴史学界に於て本格的にその調査、研究対象として取上げられたことは皆無と云っても過言ではない。僅かに日本に於て、その一部を保有する現蔵機関所属の独語、独文研究者による箇別的現蔵報告(歴史資料、歴史遺産という認識が当該報告者達には認められず、所要書誌情報に就ての報告を多々欠いており、報告者の観点からすると極めて不全)数篇と、例えば第一次世界大戦時のドイツ人捕虜問題を取上げる際に副次的にその存在が言及された場合を算えるのみであった。

2. 研究の目的

そこで当プロジェクトに於ては、その最終目標を、日本国内に分散現蔵されているドイツ租借期青島旧蔵書籍(約25機関、大約9,000冊)という歴史資料群の全貌把握と、その存在(資料群としても、箇々の書冊としても)の歴史的背景の解明とに設定した。前回科研プロジェクト(独逸租借期青島旧蔵書籍上所見<書誌情報>の緊急採録と当該書籍に就ての総合的研究、平成22-25年度、基盤研究[B])の終了迄に、如下の準備作業即ち全貌把握に必須の青島守備軍所製日語訳書目(前記)を活字化のうえ、公表、之にドイツ側所製欧文蔵書目録を加えて青島守備軍接收のドイツ租借期青島旧蔵書籍と看做したうえで、そこに箇々の現蔵諸機関名を付記して、青島守備軍寄贈、在日現蔵書目(平成17年度-平成19年度科研費補助金研究成果報告書、課題番號1730091)を作成を了えていたので、予算と作業の効率とを考慮した結果、今次プロジェクトに於ては、当面の調査対象を帝国大学、高等学校などの学術機関宛寄贈書籍に絞ったうえで、箇々の書冊に遺る<書誌情報>の収集に傾注することとした。<書誌情報>自体が、各種各様なことを物語る貴重な歴史遺産であるが故である。

3. 研究の方法

今次プロジェクトに於ては、申請時の研究計画書に記した如く、学術機関宛寄贈の書籍上に貼押、記入された<書誌情報>(蔵書、整理票、蔵書印、署名、書籍整理時の書込など)の緊急採録、分析を継続遂行すると共に、その作業を通じて初めて視えて来る当該書籍の青島への将来事情、青島での整理、利用状況、日本の青島守備軍による接收、整理、処分状況、及びドイツの東亜に於る租借地経営(特にその文化、教育面)の実態並びにその特徴を精査することとした。

に就て云うと、今次プロジェクト開始時点に於て、当該書籍の約1/3に就ての精査を了えていた。精査完了の受贈機関は北海道農科大学と松山高校の2機関のみ故、其他の受贈機関に対し、長期滞在が可能な時期に両名で訪査して、各々、書庫内の捜書と諸遺痕の撮影(図書受入簿、図書

カード等を含む)を分担し、収集した資料を金沢に持帰り、原稿入力作業と併行して、之を分析することとした。既に集積したデータとの比較、検討が必要な故である。

に就て云うと、<書誌情報>の採録という調査手法に就き、之を陳腐と看做す向きがあるやもしれぬが、特に青島在設ドイツ諸機関の蔵書形成の解明には、斯る伝統的文献学的手法の徹底した遂行が不可欠で、本プロジェクトの場合は、当該書籍に最も習熟した同一調査者が之を担当するという点に意義が有る。その具体的成果に就ては、以下で報告する。

4. 研究成果

今次プロジェクト終了時迄に、当該書籍の約2/3に就ての精査を完了した。新たな精査完了の受贈機関は第2、第3高等学校、新潟高校の3機関のみながら、東北帝国大学に就ては雑誌5、6冊を遺すのみで、山形高校は9割方を了え、東京帝国大学も8割方、松本高校も5割方を了え、京都帝国大学は、雑誌は未だ2割程ながら、単行本は完了している。更に1期、略々同規模のプロジェクトを遂行するならば、当該書籍に対する所期の目的を達成し得るであろう。

斯る精査作業に加えて、金沢及び京都での電網調査の結果、申請時の研究計画書に約した如く、調査結果を2篇(後掲、)公表した。このうちの は、今次プロジェクト遂行中に気づいた従来からの懸案事3件に就てであって、そのうちの2件は膠州図書館蔵書に関わる。1.は当該図書館に書籍を寄贈したハインリッヒ、グラウエという人物に就てで、彼の生涯の概略を復原、提示すると共に、その蔵書票の同定を試みた(その後の調査で当該同定の正しきことを確認済み)。2.は当該図書館の受入蔵書印に就てで、3種類ある受入蔵書印のうちで懸案となっていた長方形印の使用期間を確定した。3.はヴィルヘルム、コーン叢書(前掲)の寄贈者ヴィルヘルム、コーンに就てで、従来不明であった彼の晩年に於る動向の一端を、彼の手紙やベルリン市住民録に拠って解明した。また は、新潟高校が受贈した当該書籍に就ての略報である。新潟高校の図書受入簿は近年廃棄されたとの由故、今次略報に於る載録が唯一の資料となってしまった。尚、執筆中に入手したベルリン蔵書票協会の機関誌、及び帝国海軍省の定期刊行物に拠り、膠州図書館蔵書票の印刷用組版が1898年の年末迄には青島に到着していたこと、また当該図書館創設時の勅許状とその財団証書の全文に就ても、各々付記として載録しておいた。孰れも当プロジェクト開始時からの懸案事項であった。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計2件)

持井康孝、古市大輔、Sylke U. Scherrmann「新潟高等学校受入独逸租借期青島所蔵書籍略報、『金沢大学歴史言語文化学系論集:史学、考古学篇』、第10号、2018年、金沢大学歴史言語文化学系、33-116頁(B5版)。査読ナシ

持井康孝、古市大輔、Sylke U. Scherrmann「独逸租借期青島旧蔵書籍調査速報」、『金沢大学歴史言語文化学系論集:史学、考古学篇』、第8号、2016年、金沢大学歴史言語文化学系、15-86頁(B5版)。査読ナシ

〔学会発表〕(計0件)

〔図書〕(計0件)

〔産業財産権〕

出願状況(計0件)

名称:

発明者:

権利者:

種類:

番号:

出願年:

国内外の別:

取得状況(計0件)

名称:

発明者:

権利者:

種類:

番号:

取得年:

国内外の別:

〔その他〕
ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究分担者

研究分担者氏名：

ローマ字氏名：

所属研究機関名：

部局名：

職名：

研究者番号（8桁）：

(2) 研究協力者

研究協力者氏名：安部 聡一郎

ローマ字氏名：(ABE, Soichiro)

研究協力者氏名：石川 洋

ローマ字氏名：(ISHIKAWA, Hiroshi)

研究協力者氏名：岩井 茂樹

ローマ字氏名：(IWAI, Shigeki)

研究協力者氏名：古畑 徹

ローマ字氏名：(FURUHATA, Toru)

研究協力者氏名：古市 大輔

ローマ字氏名：(FURUICHI, Daisuke)

研究協力者氏名：三木 聡

ローマ字氏名：(MIKI, Satoshi)

研究協力者氏名：村松 伸

ローマ字氏名：(MURAMATSU, Shin)

研究協力者氏名：坂元 ひろ子

ローマ字氏名：(SAKAMOTO, Hiroko)

研究協力者氏名：佐竹 保子

ローマ字氏名：(SATAKE, Yasuko)

研究協力者氏名：關尾 史郎

ローマ字氏名：(SEKIO, Shiro)

研究協力者氏名：スィルケ U. シェルマン

ローマ字氏名：(Sylke U. SCHERRMANN)

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。